

岩手県災害ボランティアセンターについて



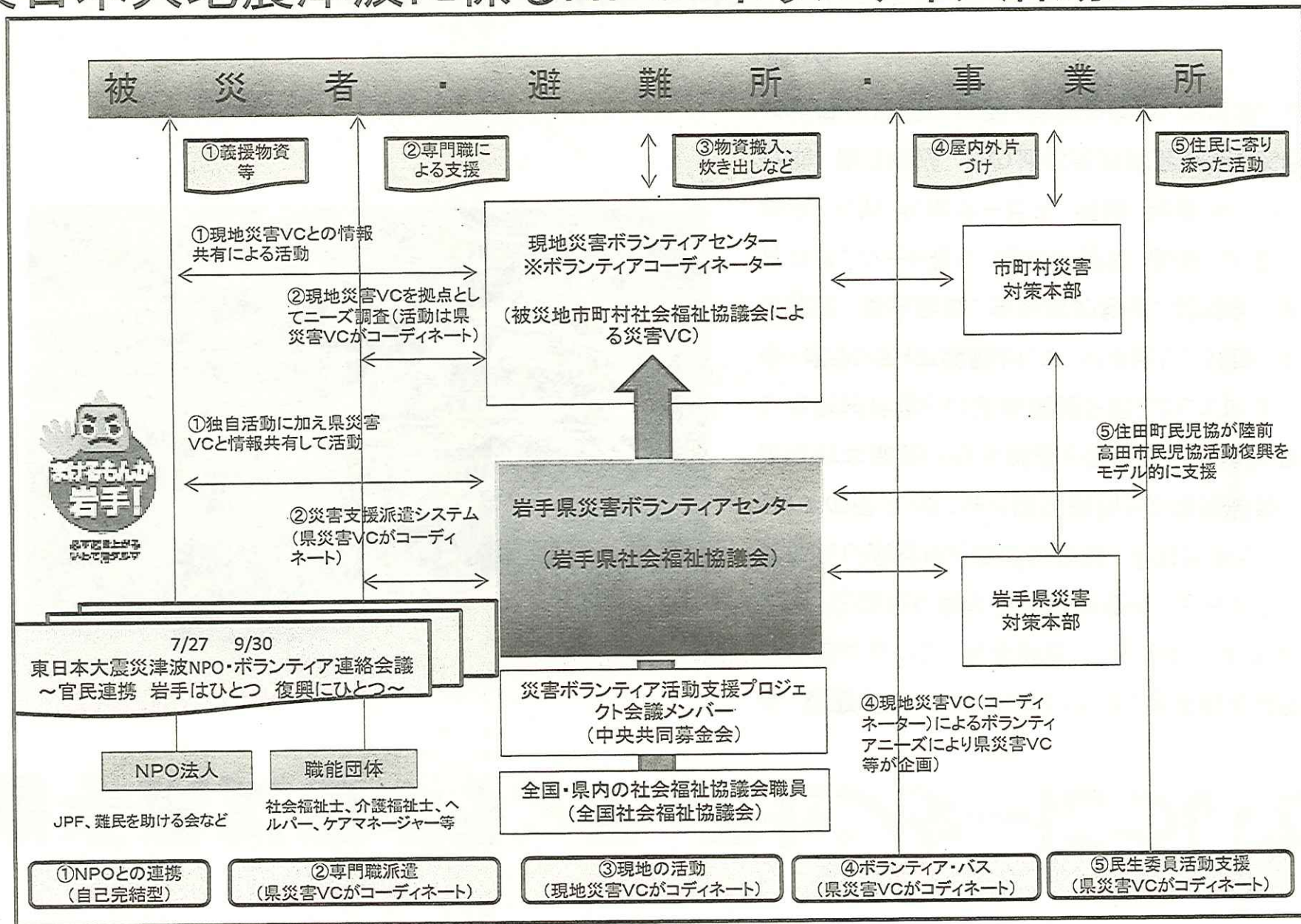
◆ **災害ボランティア**については、岩手県地域防災計画において、県本部長は「①活動に対する支援、②活動に関する情報の提供、③日赤県支部及び県社協との連絡調整、④県外ボランティアの受入れに係る関係機関との連絡調整、市町村本部長は県本部長と同様に日赤地区及び市町村社協との連絡調整を図るとしている。

◆ **ボランティア活動**として、炊き出し、引越、安否確認、募金活動、負傷者の移送、話相手、後片付け、シート張り、避難所運営、給食・洗濯・移送・入浴・利用サービス、清掃、物資仕分け、介助、物資搬送、その他応急危険度判定、医療、無線等の専門的知識、技術を生かした活動としている。

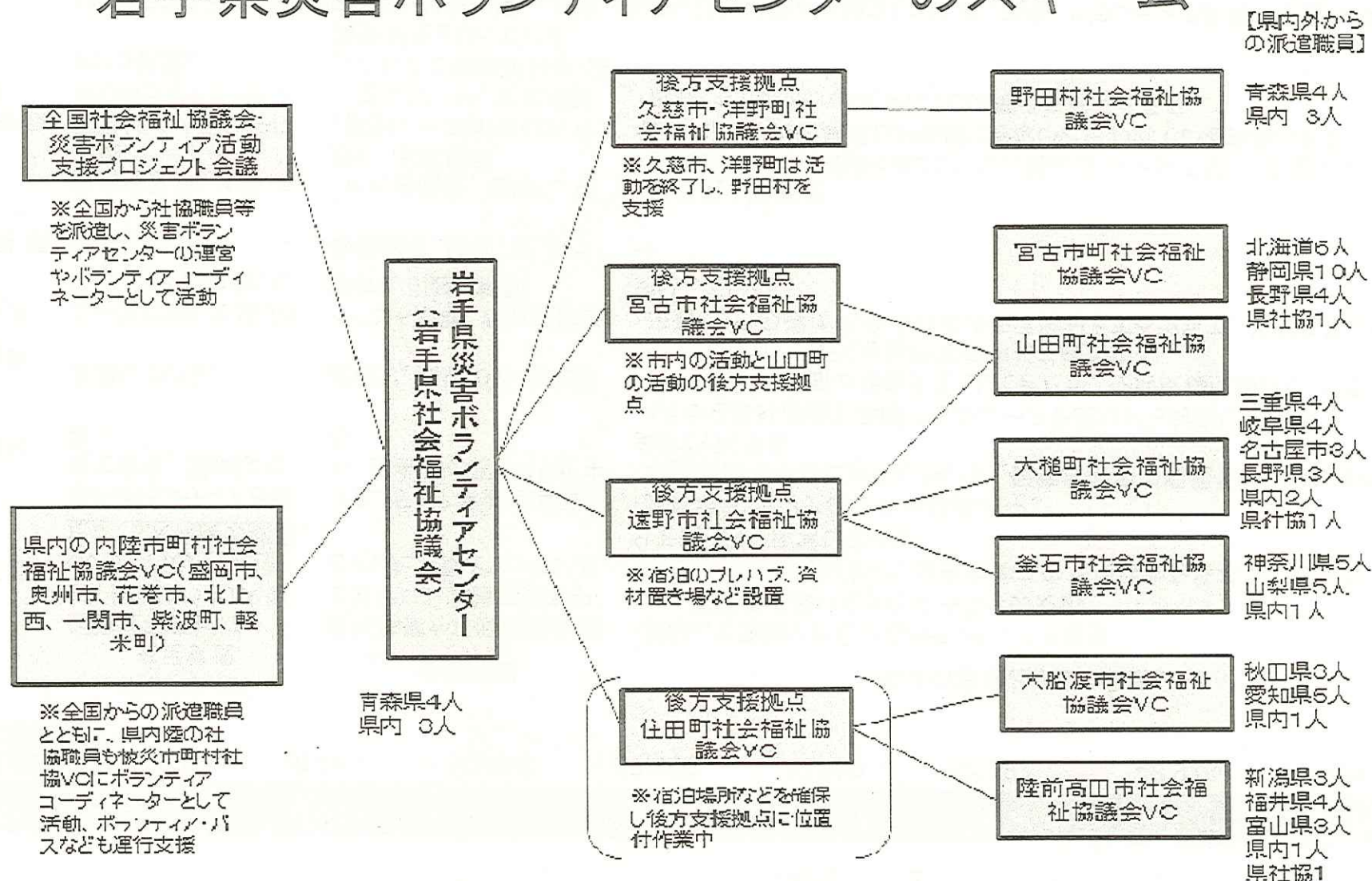
～被災者の生活再建と地域福祉を推進し県民の生活を支えます～

平成24年3月 岩手県保健福祉部地域福祉課

東日本大地震津波に係るNPO・ボランティア活動スキーム



岩手県災害ボランティアセンターのスキーム



(注) 災害ボランティア活動を展開する大まかなイメージであり、各市町村及び社協の実情により、自主性を尊重しつつ展開されています。

災害ボランティアセンター等を経由したボランティア数と活動状況等

(期間：H23.3.11～H24.1.31 単位：人)

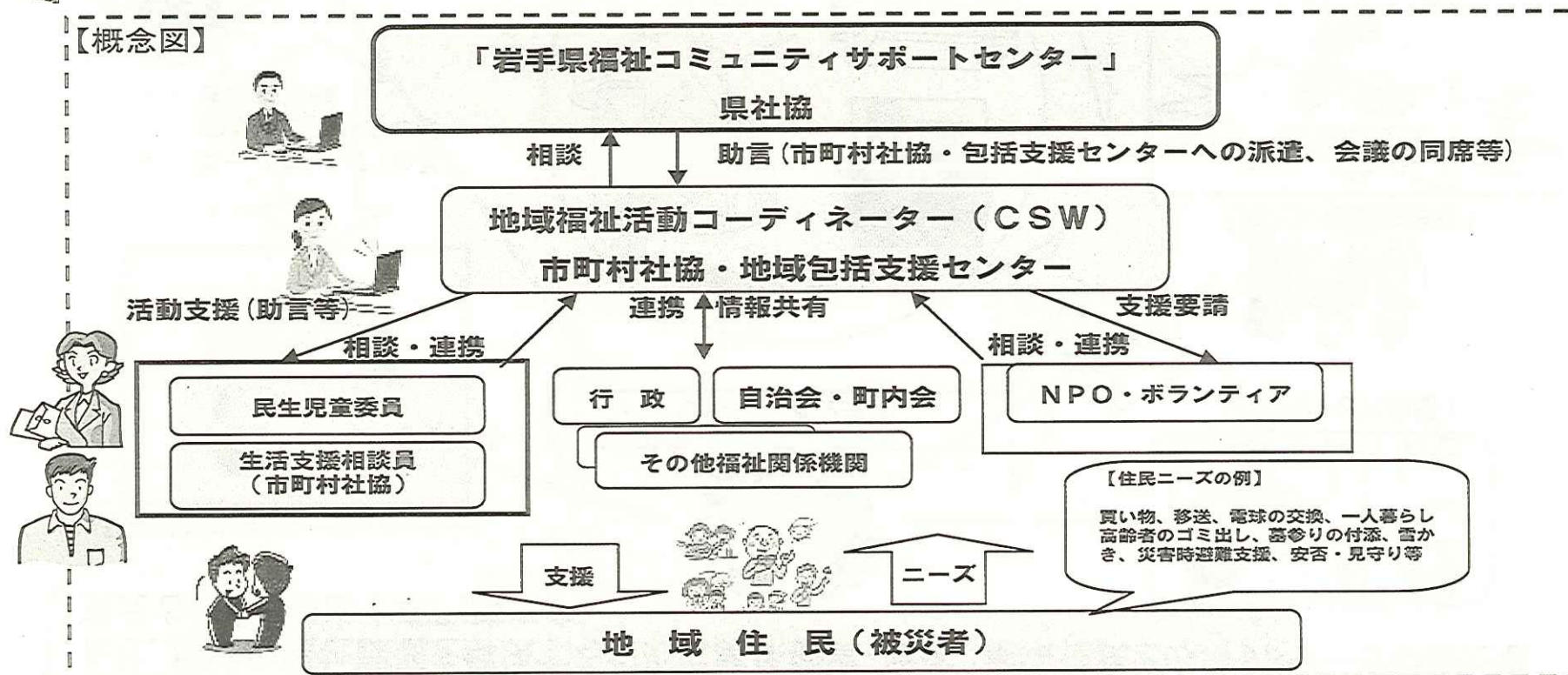
合 計	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	遠野市	その他
326,129	19,406	24,783	50,691	37,300	27,800	90,697	48,978	26,474

	ボランティア 充足状況	活動内容	現在の課題と今後の見通し
宮古市	仮設住宅支援は、1集会所につき1人欲しいので10人は必要だが、5人程度の状況。	屋外作業から仮設集会所でのサロン運営支援を中心とした活動となっている。	・継続して活動いただけるボランティアの確保 ・ニーズ調査で挙げられたニーズへの対応 ・市民への活動呼びかけ、住民主体での支援活動を基本とし、足りない部分を補う形で運営していく。
山田町	県内ボランティアと職員で対応。現状は充足。	ボランティア活動は写真洗浄、集会所の棚づくりが中心	・県外ボランティアの受入れは休止中。 ・写真洗浄は早期に対応したいが、保管場所等の問題もあるため現状のままで行く予定。 ・4月から県外募集を再開するがニーズを見ながら対応していく。
大槌町	充足している。	泥出し、商店の外の清掃	・これまでハード面の活動を主としてきたが、生活支援に移行し、ボランティアに協力いただく活動内容の開拓を検討中
釜石市	ニーズに対して足りないという認識はない。	イベント補助、がれき撤去(数件)、引越し補助	・来週(23日の週)から金土日のみを活動日とする予定で、状況を見ながら対応していく。
大船渡市	充足している。	砂利敷き、整地、泥上げ	—
陸前高田市	平日は不足、土日は充足。 平日はニーズ10件に対しボランティア10人という状況。	・がれき撤去、泥出し、引越し、写真展示 (個別ニーズが全くないわけではないが、主な活動はこれまで同様がれき・泥撤去が主となっている)	・平日の人手不足 ・住民からのニーズ掘り起こし(VCの認知度が十分でない。災害VCという名称により、力仕事系しか依頼できないと思われる気配もある) ・広報(全戸配布)の次号にVCの紹介を載せる予定。
遠野市 (後方支援)	・遠野まごころネットはNPO法人格を取得し、また、拠点も社協建物から独立したため、現在、ボランティア募集や活動内容の決定等はNPO法人としてのまごころネットが独自に行っており、遠野VC(市社協)では活動人数の報告のみもらっている状況。 ※ なお、遠野まごころネットでは、遠野市から委託を受け(緊急雇用創出事業)、同市、大槌町、陸前高田市で被災住民や長期ボランティアを「地域づくりサポーター」として計180人雇用(各市町60人ずつ)することとしている。		

岩手県福祉コミュニティサポートセンター

平成24年2月 岩手県保健福祉部地域福祉課

◆福祉コミュニティサポートセンターは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して、地域社会の福祉課題の解決に取り組むことを支援する拠点です。

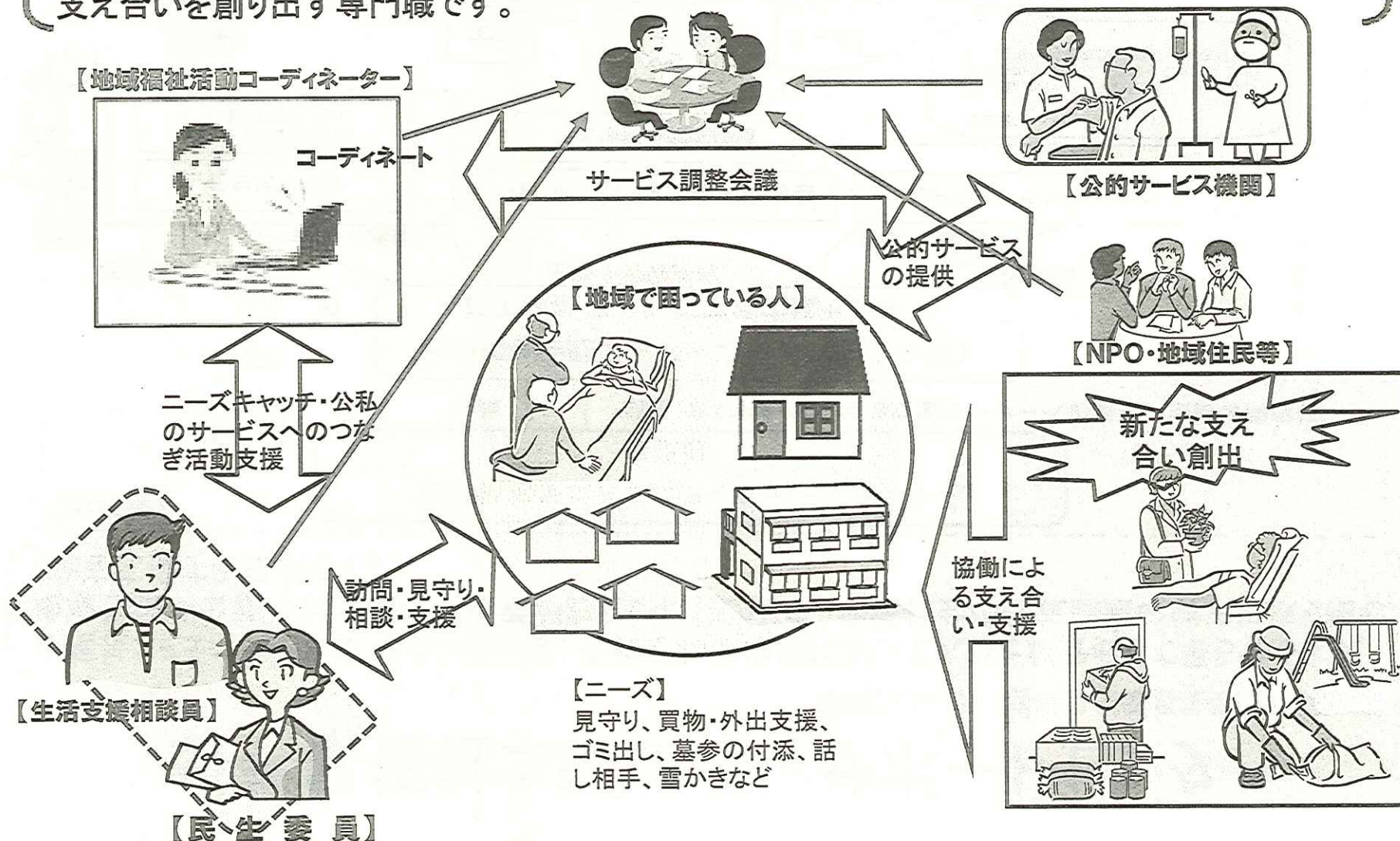


【推進のキーワード】

1. 福祉コミュニティの再生
支え合いと活気がある社会で、すべての人に居場所と出番があり、人の役立つ喜びを大切にする社会。
2. 社会関係資本の高度化
ソーシャル・キャピタルが豊かで、相互信頼が高く社会コストが低い、住民の幸せ度の高い社会。

地域福祉活動コーディネーター(CSW)

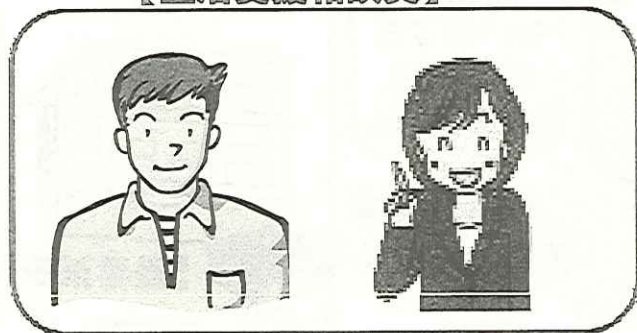
◆地域福祉活動コーディネーター(CSW)は、地域で困っている人に必要な支援を結びつけたり、地域の福祉課題を解決するために関係機関・団体、地域住民とのネットワークや新たな支え合いを創り出す専門職です。



生活支援相談員

◆生活支援相談員は、東日本大震災津波により民生委員も多数被災し、住民ニーズを的確に把握する人員の充実が急務となっていることから、NPO団体や災害ボランティア等とも連携を図りながら、避難所、在宅避難者、応急仮設住宅等を巡回し、地域住民の生活ニーズの掘り起こしを行い、生活支援相談等に応じることにより、被災地の復興の一翼を担うため社会福祉協議会に配置しています。

【生活支援相談員】

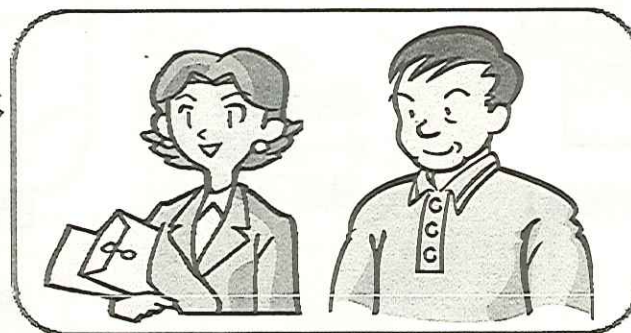


生活福祉資金相談、安否確認・見守り
ニーズ調査(電子化)⇒CSW, 専門機関
等へのつなぎ、サロン、など

連携からやがては
民生委員制度
にシフト

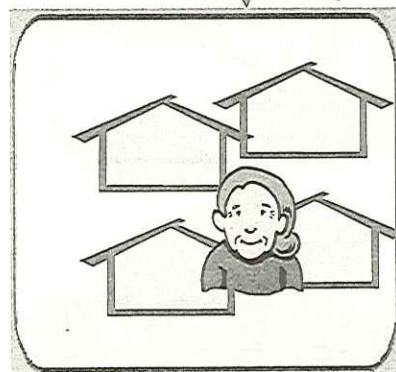


【民生委員】

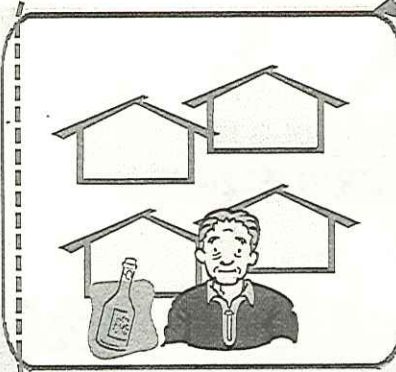


安否確認・見守り、相談支援、サロンなど

連携(見守り、サロン)



A地区仮設団地



B地区仮設団地

【ニーズ】
見守り、買物・
外出支援、ゴミ
出し、墓参の
付添、話し相
手、雪かきなど



B地区みなし仮設



A地区在宅被災者

被災世帯情報の電子化

◆被災世帯情報の電子化は、全国社会福祉協議会がソフト開発し、被災3県で導入、被災者の生活支援、復興に重要な役割を果たします。

【全国社会福祉協議会・岩手県社会福祉協議会】
(岩手県福祉コミュニティサポートセンター)

【岩手県庁・復興局】

